

多職種で気づき合い・伝え合うチームケア ～最期に望む生き方を支えるために～



担当: 佛教大学保健医療技術学部看護学科 清水奈穂美
在宅看護専門看護師 訪問看護認定看護師 NST専門療法士

最期までその人らしく生きることを支えるために

人生を最期まで自分らしく生きるために、厚生労働省は「人生会議」と称しアドバンス・ケア・プランニングを推奨している。(厚生省: 人生会議してみませんか https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html)

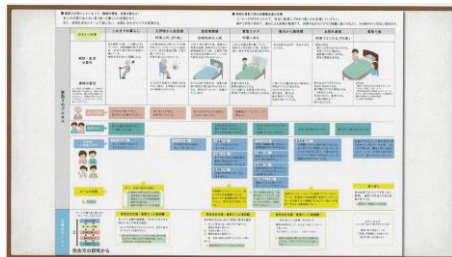
地域では、高齢多死社会に伴う、在宅・介護施設における看取りの需要拡大に向け、アドバンス・ケア・プランニングを始めとした様々な研修が行われている。(厚生省: 人生会議自治体等における普及啓発事例, 2023)

滋賀県内の取り組みの一例では、職種や事業所を問わず看取りの経験や課題を広く共有できるよう「看取り見える化シート」を用いたチームケアを推進している。(滋賀県医療と介護をつなぐ看取り介護推進事業; 滋賀県老人福祉施設協議会発行「看取りの見える化シート」, 2022)

看取りの見える化シート活用: 思いを語ってもらう場をつくる

限られた時間の中でのワーク: 付箋の活用

付箋がない空白の部分: 見ていなかった視点、気づかなかった点、課題が見つかる
例「これまでの暮らしの情報が少なく、知らないこともあった」「身体の変化、看取りの時期をみるのが難しかった」
「家族の思いを十分にきけてなかったから今度聞こう」
「背中をさすることしかできなかった(暮らしの延長での看取りだから自信をもって大丈夫!)」



清水奈穂美: 看取りのカンファレンスを進めるための役職のスキルを磨こう
看取り見える化シートの活用研修 (2023)

看取りの見える化シート活用の効果と課題

- 見える化シートは、本人の思いを中心に、家族や多職種の思いを可視化し
＜情報共有できるツールになる＞や＜ケアの方向性を考える＞ことができる。
- 見える化シートの活用により＜自分の考えを言語化する＞ことや＜他職種に伝えていく＞こと、それらが＜チームで看取る重要性＞につながる。
- 看取りケアに対する悩みでは＜職種間の思いの違い＞＜同職種間の情報共有の不足＞＜思いを伝えることの難しさ＞＜タイミングの難しさ＞＜自施設の取り組みへの不安＞があった。

「自分の思いをなかなか伝えることができない」

➡ 思いを語ることから始めてみる

Let's try 思いを伝え合ってみよう

白紙とペンを用意してください。
あなたが**多職種連携**を行う上で一番大切にしたいことは何ですか？
自己紹介(お名前とご所属)をかねて、漢字一文字で伝えてみよう！

グラドルール

- ・1人ずつ自己紹介を行う
- ・聞いた人は**できるだけ反応をする(応答する)**
- ・全員の自己紹介が終わったら終了
- ・気になった話題があれば掘り下げてもOK

応答のスキル

応答の要素

待つ・聴く・確かめる・返す

応答の実践例のポイント

- ・**待つ** 考える時間を(ひとそれぞれでそのスピードは違うので)つくるように意識する
 - ・**聴く** うなづく 共感の表情 体の向き・視線を適度に合わせる 相手のペースに合わせる
 - ・**確かめる** 相手が考えた道筋を確認する 言い換え 合意的確認 明確化 相手の真意を見極める
 - ・**返す** あいづちを入れる 感謝 賞賛 共感 フィードバック
- ・この応答のスキルは、話が行き詰ったときや多職種チームとのカンファレンスや、話が行き詰ったときに役立つと思います。

清水宗徳夫 (2023) : 訪問看護と介護: 書籍より

研修目的・ゴール・内容

研修目的

地域住民の暮らしを支え、ケアするみなさん、地域を創るみなさんと一緒に、これからのチームケア・連携を考え、**語り合える機会**にしたい

研修のゴール

1. 多職種連携を実践するために必要な力が理解できる
2. 自分の思い(考えや価値観)を自分の言葉で伝えることができる
3. 他者の思い(考えや価値観)を知り、チームにおける自分の役割について考えることができる

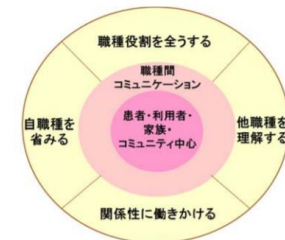
研修内容

1. 多職種連携のコンピテンシーとは
2. 事例を通して思いを伝えるワーク
3. 在宅における多職種連携の課題と対策
グループワーク「最期までその人らしく生きることを支えるために取り組めること」

多職種連携コンピテンシーモデル

- **本人と家族を中心に置く**
患者や利用者、家族、地域にとっての重要な
関心事/課題に焦点を当て **共通の目標を設定する**
- **職種間コミュニケーション**
職種の背景が異なることに配慮し、互いに、互いの
職種としての役割、知識、意見、**価値観を伝え合える**

**本人とその家族にとっての最善を
共通の目標で協働することが重要**



協働的能力としての多職種連携
コンピテンシーモデル
(コンピテンシーとは「能力」のこと)

https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/mirai_iryu/pdf/Interprofessional_Competency_in_Japan_ver15.pdf

療養者本人と家族の望む生活や生き方を支える多職種連携で大切なこと

職種としての役割を全うする

互いの役割を理解し、互いの知識・技術を活かし合い、職種の役割を全うする

関係性に働きかける

複数の職種との関係性の構築・維持・成長を支援・調整する
時に生じる職種間の葛藤に、適切に対応する

自職種を省みる

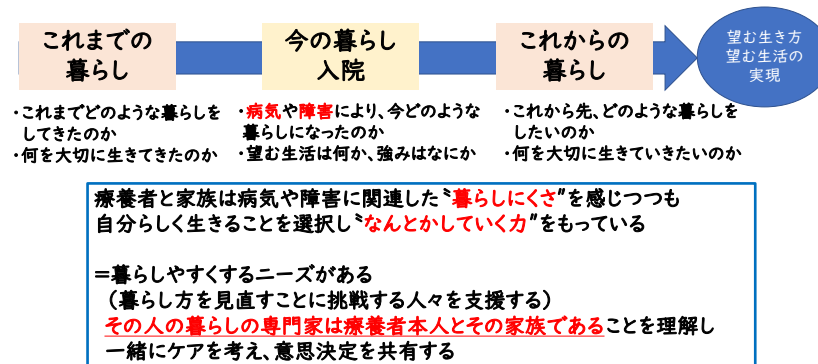
自職種の思考、行為、感情、価値観を振り返り、複数の職種との連携協働の経験を通じ深く理解し、連携協働に活かす

他職種を理解する

他の職種の思考、行為、感情、価値観を理解し、連携協働に活かす

プロフェSSIONALとして、考え、行動し、振り返って学ぶことが重要

その人の暮らしの専門家



清水奈穂美：在宅ケアのための判断力トレーニング、2022

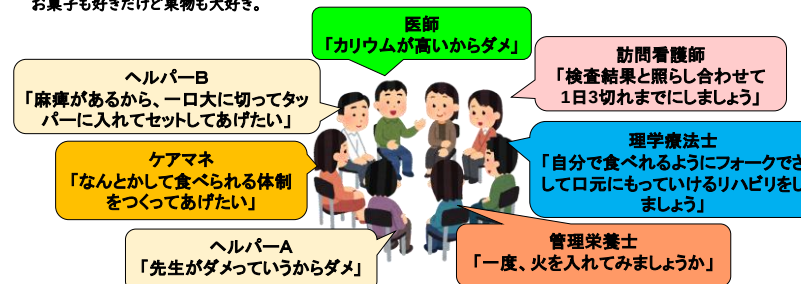
その人の暮らしを支援する専門家;みなさんの専門性は?

「メロンが食べたい」のケースを通して、
あなただったら、どんな発言をしますか?
専門的立場から、ぜひ考えてみてください

清水奈穂美：在宅ケアのための判断力トレーニング、2022

「メロンが食べたい」に何を考えるか:サービス担当者会議

メロンを食べたい独居高齢者さん「どれだけやったら食べてもいい?」
糖尿病があり、麻痺もあって、腎機能が悪い。「まだ死にたくはない」と思っている。
お菓子も好きだけど果物も大好き。



専門的立場から「療養者本人のことを考えた発言」

清水奈穂美：在宅ケアのための判断力トレーニング、2022

在宅ケアにおける多職種連携を行うために

・在宅ケアの現場では

「療養者とその家族が大切にしていること（価値観や思い）」や
「療養者とその家族の暮らし」を理解し、生き方そのものを支える

・多職種連携の中心に本人の思いを置く

療養者その人の価値観や思いにふれながら、療養者を取り巻く家族や
多職種など周囲の人々の状況もふまえた判断を考える

清水幸隆美：在宅ケアのための判断力トレーニング、2022

在宅ケアにおける多職種連携の課題

他職種とコミュニケーションをとる上での困難

互いに時間的余裕がない
忙しいので遠慮してしまう
他職種に認知されておらずつながらない
地域資源の活用方法がわからない

利用者サービス提供上の困難

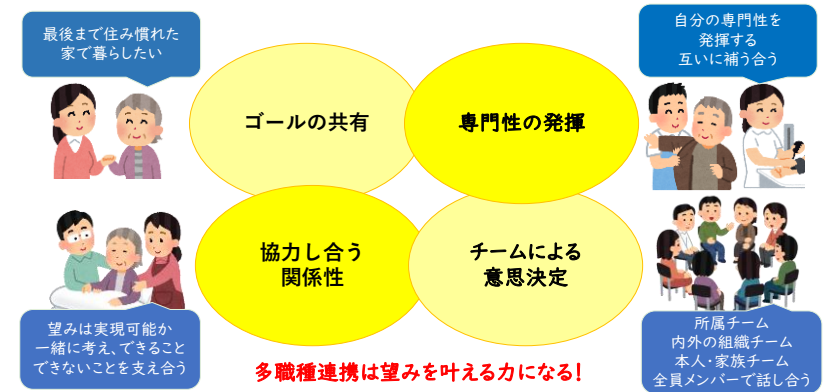
専門職間の視点や役割期待が異なる
利用者の情報を共有するのが難しい

ケアチームとして機能する上での困難

相手の能力がわからない
本音で話づらい
他職種との壁がある

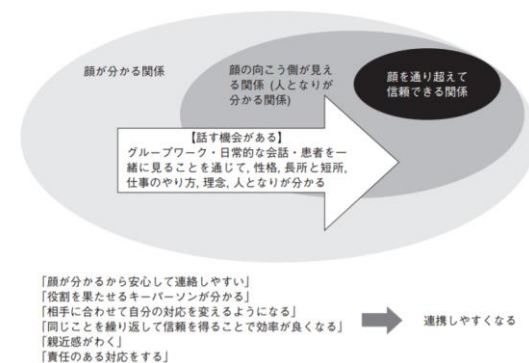
(成瀬, 2018)

在宅療養者とその家族の望みを叶えるチームになるために



多職種連携のキーワード:「顔の見える関係」から「信頼できる関係」

考え方や価値観、人となりがわかるような関係



看取りにおける多職種連携で困難だと感じること

医師との困難

ゆっくり話ができない

何が起きているのか、どのような情報を伝えたらいいのかわからない

看取りに対する考え方、取り組み方にズレがある

夜間や休日の状態変化の際、施設への往診が困難

医療的アドバイスがなく不安（適切な時期・タイミングでの対応が後手となる）

職種間との困難

意識、考えの相違、ケアの方法の統一、ケアに対しての考え方が食い違う

知識や経験に差がある中でチームで共通の理解、関わり方をおこなうこと

看取り期になると看護が介入して、介護がどこまで手を出していいかわからない

夜間帯は1人で勤務のため不安感と恐怖感がある

看取りに対する不安感と負担感の軽減が難しい

訪問看護や病院の医療職らとの、専門用語の意味などが理解できず慌てる

特に「様子観察」は医療職と介護職とで大きくズレている

（R2年藤原川内市・藤原郡さつま町内にある高齢者施設・障害者施設を対象にした調査結果より、整理し改変）

看取りについて家族とのやりとりで困難だと感じること

家族間の問題に対する困難

家族間で、看取りに対する意向が違うことがあり、方針を決めかねる

キーパーソンと意向を固めたが、他家族と意向が合わず、困る

遠方と身近の家族で希望や意見が異なり、まとまっていない

複数の家族が違う要望を出してくる

家族の認識や説明に関する困難

面会する機会がとれていない家族との病状に対する現状把握のズレがある

当初、家族は看取りの意向であるが、状態の変化に伴い悩まれる

看取りの時期になっていることに対する家族の理解が難しい

家族によって看取りについての考え方や理解度がさまざま

看取りの時期になっていることを家族に説明することが難しい

病状説明をふまえて、生活や支援を分かりやすく説明することが難しい

看取りに対する不安等から、利用者、家族と関わる職員に偏りが生じる

（R2年藤原川内市・藤原郡さつま町内にある高齢者施設・障害者施設を対象にした調査結果より、整理し改変）

目指したいチーム：

心理的安全性が保たれ、フラットな関係性でチーム力を高める

これまでのチームの在り方

- ・専門職ごとの利用者のゴール設定
- ・専門職ごとに情報を管理
- ・消極的な療養者や家族の参画
- ・医療者主導の方針決定
- ・指示や命令になりがちなコミュニケーション
- ・リーダーは固定

これからのチームの在り方

- ・チームでゴールを共有
- ・チームで情報を共有
- ・積極的に利用者や家族の参画を促す
- ・それぞれの職種の見方や考え方の意見交換
- ・療養者と家族を中心にチームで方針決定
- ・対話を中心としたコミュニケーション
- ・状況に応じたリーダーシップ
- ・同じ方向を向いて学び続けられるチーム

心理的安全性とは

自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状態

自然体の自分を安心してさらけ出すことができる環境

naomi shimizu

地域・在宅における施設系の看取りに関する多職種連携の課題

「施設で亡くなりたいという希望があれば受け入れる」

・特別養護老人ホーム 83.9%

・介護付き有料老人ホーム 75.6%

「受け入れられないことがある理由（上位の項目）」

・サ高住以外は、受け入れられない理由はない 37.9%

・家族の意見等が一致しない 20.3%

・家族の同意が得られない 17.5%

・夜間は看護職がいない 10.1%

・そもそも看取りを行う施設ではない 20.0%

看取りケアの質の向上

看取りの受け入れの方針（施設長の考え方が影響）

医療と介護の連携が鍵を握る

特別養護老人ホームにおける看取り等のあり方に関する調査研究事業
高齢者向け住まいにおける運営形態の多様化に関する実態調査研究事業

グループワーク：在宅看取りにおける多職種連携の課題

今の仕事（役割）について、好きなところ、面白いと思っているところを一言そえて

多職種連携で「こまったな」と感じたことを語る
それは、どんなとき、どんなことだったでしょうか
どんな支援や協力がほしかったのかを伝えてみる

「こまったな」がない場合は、「うまくいったな」と感じたことを語る
うまくいった決め手は何かを考えて伝えてみる

グラドルール 応答のスキルを実践してください！

やってみよう！リフレクション

この研修を通して

①自分の思考（考えや価値観）について、気づいたことはありますか？
どのようなことを学びましたか？

②この気づきや学びから、あなた自身どのようにこれからのケアに活かしていきたいと思いますか？

清水宗穂美（2022）：在宅ケアのための判断力トレーニング

まとめ①多職種連携の中で、自分にできること、チームとできることを整理する

- ・その人らしく生きることを支えるために、チームの中で、自分にできることは何か、自分に求められている役割は何か、チームメンバーと一緒にできることは何かを考えること、日頃のチームワークこそが豊かな看取りにつながると考えます。
- ・看取りの振り返りは、療養者さんからの贈り物。家族や関わったすべての人のグリーフケアにつながります。ひとつひとつのケースを大切に学び合うことがチームケアを高めます。

まとめ② 全員活躍チームの極意

あれこれアドバイスするのではなく（判断や評価を加えず）
その人の考えや価値観、思いに心から共感し、理解すること
その思いの理由（背景、職種の専門性、感情等）を知ること
話が少々脱線しても、ちょっと違ってても、信頼して、受け入れること
真摯な態度で、話が分かりにくい時はもう少し詳しくきかせて伝えて
真意を確認すること

その人自身が自分で答えを導き出すことができます
学びあい、気づき合いにつながり自分も相手もチームも成長します

清水宗穂美：看取りのカンファレンスを進めるための発問のスキルを磨こう
看取り見える化シートの活用研修（2023）